

第1学年 英語科学習指導案

日 時：平成28年6月24日（金）4限

1. 単元名 Program4 リサイクル活動（SUNSHINE ENGLISH COURSE 1）

2. 単元を貫くテーマ

英語の語順を理解したうえで、疑問詞(what, How many)を含む文の構造や単数、複数の違いを理解し、表現することができる。

3. 単元（題材）について

① 生徒について

本学級では、これまで be 動詞を含む文と一般動詞を含む文の文構造の違いに気づけるように語順カードを使って学習をしてきた。2つの文を対比させながらスパイラル学習をすることで、生徒は英語の語順を意識しながら練習問題に取り組むことができるようになってきている。このように、スパイラル学習をすることを通して、最近是一般動詞と be 動詞の違いが理解できる生徒が増えてきた。また、新出表現や単語を積極的に使おうとする生徒も増え、自己紹介や簡単な質問がペア活動の場や個人発表の場であることができるようになってきた。

既習の「Do you ～ ?」、「Are you ～ ?」だけでは表現材料が少なかったが、疑問詞を含む疑問文を用いることで生徒の自己表現の幅がより広がることが期待できる。

しかし、学びの実態に目を向けると、本学級の生徒は自己表現が苦手な自信がなく、コミュニケーションをとることが苦手な生徒もいるため、授業では、発表の場がペア活動からグループ、そして全体へと段階的になるように工夫している。また、主語・動詞の区別がつかなくなったり、疑問文や否定文の文構造の違いを理解できなくなったりする生徒など、支援を要する生徒も多い。

② 単元構成について

学習指導要領「イ 話すこと（イ）自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」「エ 書くこと（イ）語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。」に基づき設定されている。本単元は、身近なリサイクル活動を紹介している。タケシたちの行動から、自分たちの生活の中でも身近な取り組みとして考えさせたい。本題材の中心的言語材料は疑問詞（what, How many）を含む一般動詞の文である。このような言語材料をもとに、ペアワークなどですべての生徒に学ぶ機会、活動する機会を保障しながら、身近なことについて興味や関心を自己表現できる力を伸ばしたい。

③ 指導について

指導にあたっては、既習事項の助動詞（do）の復習を含めながらスパイラルに学習を進めていく。そして、自分の言葉で相手に文法事項を説明できるくらいに理解を深め、英文で表現するという活動を通して、正確に文型を定着させたい。また、疑問詞を用いた疑問文を練習することで自己表現の幅を広げたいと考えている。

4. 単元の目標

・新しく学んだ表現を用いて、間違えることをおそれずに話すことができる。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

・疑問詞(what, How many)を用いた文を使って質問したり、その質問に回答したりすることができる。（表現の能力）

・数を聞く表現を理解し、運用することができる。（表現の能力）

・具体的なりサイクル活動に関するその内容を理解することができる。（理解の能力）

・疑問詞（what, How many）を用いた疑問文の構造を理解している。

（言語や文化についての知識・理解）

5. 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
① 新しく学んだ表現を用いて、間違うことをおそれずに話そうとしている。	② 疑問詞(what, , How many)を用いた文を使って質問したり、その質問に回答している。	③ 具体的なリサイクル活動に関するその内容を理解している。	④ 疑問詞 (what, How many)を用いた疑問文の構造を理解している。 ⑤ 単数・複数の違いを理解している。

6. 指導と評価の計画 (全6時間)

時	ねらい	評価規準				重点	
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解		
1	<p>○疑問詞 what を用いた文の構造を理解する。</p> <p>・疑問詞 what を用いた文の構造を知る。</p> <p>・ what の使い方と what を用いた疑問文への応答の仕方を知る。</p>	<p style="color: red;">疑問詞(what, How many)を用いた文の構造を理解し、表現の仕方がわかる。</p>	<p style="color: red;">疑問詞(what, How many)を用いた文の構造を理解し、表現の仕方がわかる。</p>	<p style="color: red;">疑問詞(what, How many)を用いた文の構造を理解し、表現の仕方がわかる。</p>	<p style="color: red;">疑問詞(what, How many)を用いた文の構造を理解し、表現の仕方がわかる。</p>	④ 疑問詞(what)を用いた疑問文の構造を理解している。	主に習得
2	<p>○本文を正しく音読し、内容を理解することができる。</p>					③ 具体的なリサイクル活動に関するその内容を理解している。	主に習得

時	ねらい	評価規準				重点	
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解		
3	○名詞の複数形の使い方に習熟する。 ・名詞の複数形を含む文を言ったり書いたりする練習をする。	疑問詞(what, How many)を含む文の構造を理解し、表現することができる。	②疑問詞(what, How many)を用いた文を使って質問したり、その質問に応答している。		⑤名詞の複数形(-s, -es, -ves)の使い方を理解している。	主に習得	
4	○疑問詞を用いた文に習熟する。 ・具体的なリサイクル活動について正しく読み取る。		③具体的なリサイクル活動に関するその内容を理解している。			主に活用	
5 (本時)	○疑問詞(How many～?)の文の用法を理解する。 ・疑問詞 how many を使って相手がもっているものの数をたずねる質問したり、その質問に答えたりできる。		④疑問詞(How many)を用いた疑問文の構造を理解している。			主に習得	
6	・疑問詞 what, How many を用いた文の構造についての理解度を確認する。 ・単数・複数の違いについての理解度を確認する。		①新しく学んだ表現を用いて、間違えることをおそれずに話そうとしている。	②疑問詞(what, How many)を用いた文を使って質問したり、その質問に応答している。			主に活用

7. 本時の学習指導

①本時の目標

疑問詞 (how many) を使った文の構造を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

②学習課題

(1) 習得させること

英語の語順を踏まえた上での「疑問詞(How many～) + 疑問文」

(2) 予想される生徒のつまずき

- ・一般動詞の疑問文を作るときに、助動詞 (do) を文頭に持ってこれない。
- ・How many のあとにくる名詞の複数形に気づけるか。

(3) 深化課題

プリントの絵を見て、会話が成立するように英文を完成させなさい。

(「How many ～？」を使った会話表現)

③予習について

問いにある単語は、数えられるか数えられないかについて考えてくる。

④展開

	教師からの説明・課題提示	主な発問と 予想される生徒の反応 (・) とつまずき (△)	教師の働きかけ (・) と評価 (※)
6分 教える 10分	ウォーミングアップ ・クイック Q&A 1. 説明 ○ピクチャーカードで名詞を確認する。 ○英語の語順タイプ1 (一般動詞を含む文) を黒板に提示する。 カードを使って、疑問詞 (How many) の場所を確認する。 ○間違いやすい表現を提示し、比較させる。	平 You have <u>five</u> CDs. どの単語が「いくつ (How many) のカードに置き換えられるのか。 疑 Do you have <u>five</u> CDs? ・「数」を表わす語句に下線を引く。 下線部がわからない時の疑問詞は何だろう。 疑 <u>How many</u> CDs do you have ?	・丁寧に音読する。 ・複数形の作り方 -s, -es, -ves
考えさせる 25分	2. 理解確認 You eat <u>ten onigiris</u> . の下線部が分からない時の疑問文の作り方をペアで確認しよう。 ○ペアワークをしながら、「いくつ」を表わす疑問文の作り方をお互いに説明させる。		ポイント⑤⑥ ※疑問詞を用いた疑問文の構造を理解した発言ができているか。 (行動の確認) 【知識・理解】

	<p>○鬼太郎ゲーム（ペアワーク）</p>		
<p>考 え さ せ る 2 5 分</p>	<p>じゃんけんで勝った人は、How many?を使って質問します。負けた人は、相手の質問に答えます。</p>	<p>A: How many CDs do you have? B: I have two CDs.</p>	<p>ポイント⑦⑧</p> <p>・英語の語順に沿って、動詞や数を表す語句くる順番を確認する。</p> <p>・英語の語順に沿って、動詞や数を表す語句くる順番を確認する。</p>
	<p>3. 理解深化</p> <p>絵の様子を表す答えになるように、質問文を考えよう。</p> <p>○絵を見て、数をたずねる質問に答えさせる。 (パワーポイント)</p>	<p>A: (I see) three animals. ↓ Q: How many animals do you see?</p> <p>△How many＋名詞の複数形 の形に気づけない。</p>	
<p>自 己 評 価 4 分</p>	<p>2人の会話が成立するように吹き出しの中にセリフを書きなさい。</p> <p>○会話が成立するように、英文を完成させる。 (プリント)</p>	<p>例 A: How many sisters do you have? B: I have two sisters. A: Really? (プラスひとつ)</p> <p>△疑問詞＋疑問文の語順に気づけない。</p>	<p>・書き方のサンプルを挙げる。</p>
	<p>4. 自己評価</p> <p>○自己評価カードに記入させる。</p>	<p>・本時の目標が達成できたかについて振り返る。 ・何が分かったか、何をヒントに分かったかを文章で書く。</p>	

教える（10分）黒板左半分

Accuracy

Q and A

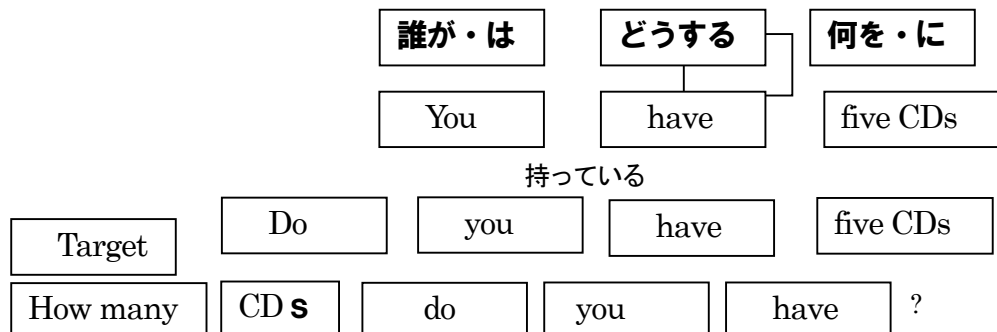
文法

Kitaro

ワークシート

振り返り

語順が分かり、数をたずねたり、答えたりできるようにしよう。

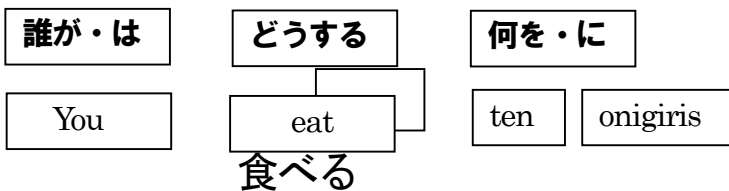


How many 複数形+疑問文

間違いやすい例 ① How many do you have?

② How many CDs have you?

理解確認（5分）黒板右半分



第2学年 国語科 学習指導案

日 時：平成28年6月24日（金）5限

1. 題材名 言葉の力（随筆）

2. 題材を貫くテーマ

筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広げることができる。

3. 題材について

①生徒について

本学級の生徒（計20名）は、本年度の標準学力調査の結果において、読む能力のみ全国平均を0.1ポイント下回っている。他の4観点では全国平均を10ポイントほど上回っており、読む能力の向上が課題として挙げられる。指示語が示す内容を見つけられない、事実と意見が読み分けられないなど、苦手意識を抱いている様子が見受けられる。

また、読む題材に対して感想を書く際に、自分の考えの根拠となる部分を挙げずに、「すごいと思った」などの安易な言葉で終わってしまう生徒も少なくない。筆者が文章に施している工夫に目を向けさせることで、筆者の考えへの理解を深めるとともに、書く学習にもつなげていきたい。

②題材について

本題材では、読むこと（ウ）「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」を、言語活動例（イ）「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。」を通して指導する。

本題材は、詩人である筆者の「言葉の本質」に対する考えが述べられており、「言葉」という抽象的なものに対する考えを「桜の木」と対応させることで、イメージしやすくなっている。しかし、「言葉」が「それを発している人間全体の世界を背負う」ということが、理解しづらいと予想されるため、「桜の花びら」「樹木全身」という比喩が示すものを捉えることで、筆者の「言葉」に対する考えを読み取らせたい。また、筆者の考えに触れることで、自分の言語生活を振り返る機会としたい。

③指導について

指導にあたっては、ペアと班を活用した学習を行う。個人思考の時間を設けたうえで、自分の考えを表出、確認する時間となるようにする。また、本題材が、「桜」という具体物に例えて考えを述べている点から、掲示物を用いて図示し、比喩が示す筆者の考えへの理解の促進を図りたい。そして、生徒の身近にある言葉を考えさせることで、本文の内容を自分のこととして考えられるようにしたい。

4. 題材の目標

- ・自分や周囲の人の言葉の使い方を見つめ直し、自分の言語生活を振り返ることができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・表現の工夫に着目して読み、筆者の考えに対して、自分の経験や体験を踏まえて感想や考えをまとめることができる。(読む能力)

5. 題材の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
①自分や周囲の人の言葉の使い方を見つめ直し、自分の言語生活を振り返っている。			①文章の構成に注意して読んでいる。 ②「言葉の本質」に対する筆者の考えを読み取っている。 ③自分の経験や体験を踏まえて感想や考えをまとめている。	

6. 指導と評価の計画（全3時間）

時	ねらい	評価規準					重点
		関心・意欲・態度	話す・ 聞く	書く	読む	知識・理 解・技能	
1	○全文を通読し、概要をつかむことができる。	自分の考えを広げることができる。 筆者のものの方や考え方を捉え、			①文章の構成に注意して内容を捉えている。		主に習得
2 (本時)	○比喩に着目し、筆者の考えを読み取ることができる。				②「言葉の本質」に対する筆者の考えを読み取っている。		主に習得
3	○「言葉の力」について、体験や見聞を振り返りながらまとめることができる。		①自分自身の言葉との関わりについて考えている。			③自分の経験や体験を踏まえて感想や考えをまとめている。	

7. 本時の学習指導

①本時の目標

桜のエピソードに着目し、「言葉の本質」に対する筆者の考えを読み取ることができる。【読む能力】

②学習課題

(1) 習得させること

筆者に影響を与えたエピソードに着目して、筆者の考えと対応させる読み方。

(2) 予想される生徒のつまずき

「人間全体」を一人の人間の「人間性」ではなく、大勢の人間だと捉えてしまう。

(3) 深化課題

「美しい言葉、正しい言葉というものも、そのときはじめて私たちの身近なものになるだろう。」とあるが、どういものが「美しい言葉」「正しい言葉」と言えるのか。具体例を挙げて説明しなさい。

④展開

	教師からの説明・課題提示	主な発問と予想される生徒の反応（・）やつまずき（△）	教師の働きかけ（・）と評価（※）
教える 15分	<p>1. 説明</p> <p>(1) 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文が、「①考え→②エピソード→③考え」と進んでいくことを確認する。 <p>(2) エピソードと考えの関係をおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者に影響を与えたエピソードを読み取ることで、筆者の考えがより理解できることを確認する。 ・第3のまとまりを読み、エピソードと考えで対応して書かれているものを抜き出させる。 <p>(3) 比喩に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「桜の花びら」にとって「木全体」がどんな役割を果たしているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「随筆＝筆者の体験＋考え」であることを再確認する。 ・「桜の花びら一枚一枚」と「言葉の一語一語」 ・「樹木全身」と「それを発している人間全体」 ・木全身で、花びらの美しいピンク色を生み出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を使い、「筆者の考え」と「桜のたとえ」が対応していることを図示する。 ・木から取り出す色が季節によって違うことを確認しておく。
考えさせる 25分	<p>2. 理解確認（8分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>● 「言葉の一語一語」が「それを発している人間全体の世界を背負う」とはどういうことか。次の文章の穴埋めをしなさい。</p> <p>「<input type="text"/>」を「<input type="text"/>」で生み出している「桜」と同じように、「言葉」も言葉を発した人の「<input type="text"/>」を表しているということ。</p> </div> <p>(1) 個人で考えさせる。</p> <p>(2) ペアで確認、説明させる。</p>	<p>△ 「人間全体」＝大勢の人間だと捉えてしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美しい花びらの色を木全体で生み出している桜と同じように、言葉も言葉を発した人の人となりを表しているということ。 	<p>ポイント⑤⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木から取り出す色が季節によって違うことを確認する。 <p>※エピソードと対応させて、「言葉の本質」について説明している。（ワークシート）</p> <p style="text-align: right;">【読む】</p>

自己評価 10分	<p>3. 理解深化 (17分)</p> <p>「美しい言葉、正しい言葉というものも、そのときはじめて私たちの身近なものになるだろう。」とあるが、どういうものが「美しい言葉」「正しい言葉」と言えるのか。具体例を挙げて説明しなさい。</p> <p>(1)個人で考えさせる。 (2)班で話し合わせる。 (3)代表者に説明させる。</p>	<p>・ 普段、一生懸命掃除している人が言う「掃除をちゃんしよう」 ⇒普段の様子があるからこそ、説得力をもつ (正しい) 言葉だ。</p>	<p>ポイント⑦⑧</p> <p>・ 「掃除をちゃんしよう」という人は、どういう人であったら説得力がある? という補助発問を投げかけ、考える材料とする。</p>
	<p>4. 自己評価</p>	<p>・ 本時の学習を振り返り、成果と課題を自己評価カードに書く。 ・ 筆者の「言葉」に対する考え方について、共感するか、しないか理由も入れてまとめる。</p>	<p>・ 本時の目標と学習内容を、黒板を使って振り返る。</p>

⑤板書計画

言葉の力

大岡 信

● エピソードに着目し、「言葉の本質」に対する筆者の考えを読み取ることができる。

桜のエピソード

筆者の考え

◎ 「言葉の一語一語」が「人間全体の世界を背負う」とはどういうことか。

「花びらの美しい色」を「木全体」で生み出している「桜」と同じように、「言葉」も言葉を発した人の「人となり」を表しているということだ。

◎ 「単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。」とあるが、どういうものが「美しい言葉」「正しい言葉」と言えるのか。具体例を挙げて説明しなさい。